



RA協議会総会 2019年9月3日(火) 17:30~18:00 / 電気通信大学 B202

情報交換会のご案内 2019年9月3日(火) 18:30~20:30 / 調布クレストンホテル

年次大会参加登録

参加登録ウェブページ

<http://www.rman.jp/meetings2019/regist.html>

上記より参加登録をお願いいたします。詳細はウェブページをご覧ください。

参加登録期限は、2019年8月2日(金) 17:00です。



会場案内

【年次大会】 電気通信大学 講堂、B棟、新C棟
〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

【情報交換会】 調布クレストンホテル
〒182-0026 東京都調布市
小島町 1-38-1 調布 PARCO 8 階
調布クレストンホテルへのアクセス
<https://www.crestonhotel.jp/chofu/access/>



※大会会場には駐車場がございません。
車でお越しの方は有料駐車場等をご利用ください。

※大会会場は全館禁煙になります。



●お問い合わせ

RA協議会 第5回年次大会 実行委員会事務局

国立大学法人電気通信大学 研究戦略統括室

●E-mail: 5thran_j@ura.uec.ac.jp

●HP: <http://www.rman.jp/meetings2019/>



RA協議会
The Research Manager and Administrator Network Japan

RA協議会 第5回 年次大会

2019.9.3 [火] 受付開始 9:00 ▶ 9.4 [水] 終了時間 16:00

- 開催場所: [年次大会] 電気通信大学 講堂、B棟、新C棟
[情報交換会] 調布クレストンホテル
- 対象: URA 等大学および研究機関の教職員、省庁関係者、助成機関関係者、その他 URA 業務に関心のある方等
- 参加費: 会員 5,000 円、非会員 20,000 円、学生 3,000 円
※情報交換会は別途 5,000 円
- 主催: リサーチ・アドミニストレーター協議会



RMAN-J
The Research Manager and Administrator Network Japan

大会テーマ

URAシステムの定着に向けて
～構想、越境、創発～

A	URA組織・人材・役割	E	専門業務	I	その他	R	国際専門委員会セッション
B	研究経営・戦略・IR	F	産官学金連携	K	スキルプログラム専門委員会セッション	O	口頭発表
C	プレアワード	G	国際	N	参加者ネットワーキングセッション	Y	非営利団体セッション
D	ポストアワード	H	人材育成	S	執行部提案セッション	Z	企業セッション

1日目 9月3日 (火)												
会場名	講堂	B201	B202	B101	B102	新C103	新C203	新C303	新C403	B棟 ロビー		
9:00-10:00	受付										展示準備	
10:00-10:20	オープニング											
10:20-10:30	休 憩										ポスター／ 企業ブース 展示	
10:30-12:00	S-1 関係省庁 セッション All				B-1 URAによる研究力 分析業務高度化に 向けて Middle/Advance	Y-1 JST JREC-IN Portalでわかる URAの求人求職状況と researchmap、J-GLOBAL を用いたURAの業務支援 All	A-1 大学発ベンチャー 創出における URAの機能 All	A-2 URAに必要な情報 収集・分析能力 All	Y-2 ホライズン 2020 プログラムを用いた 日欧共同研究 プロジェクト：ケー ススタディー All			
12:00-12:10	休 憩											
12:10-13:10		Z-1 (ランチョン) カクタス・コミュニ ケーションズ All		Z-2 (ランチョン) エダダンスグループ ジャパン All								
13:10-13:20	休 憩											
13:20-14:50	S-2 大学執行部 セッション All	I-1 ハゲタカジャーナル - 問題点・現状・ 対策 All	B-2 研究の発展につな がる評価とは： 「責任ある研究評価 測定 (Responsible Metrics)」と URA にできること All	O-1 口頭発表 1	O-2 口頭発表 2	N-1 ネットワーキング しよう	G-1 日本の大学・研究 機関の国際化に向 けた URA の役割 All		Y-3 民間助成金の獲 得に向けてー 助成金 応募に際 しての留意点な ど All			
14:50-15:50	休 憩											ポスター コアタイム
15:50-17:20		Z-3 (賛助会員セッション) クラリベイト・ アナリティクス All	A-3 URAの スキルアップ、 ステップアップを 考える Middle	O-3 口頭発表 3	O-4 口頭発表 4	N-2 プログラミングに よるデータ分析 の生産性向上ー Code for Research Administration	R-1 世界の URA 達： Research Administration as a Profession (RAAAP) Survey All	F-1 研究力を伸ばす 産学連携の新た な視点 All	C-1 日本の国際研究者メンバ ーのキャリア形成と外部 資金の獲得支援メンタリ ングプログラム (個人指 導プログラム) を通じて Middle			
17:20-17:30	休 憩											ポスター／ 企業ブース 展示
17:30-18:00			総 会									
18:30-20:30	情報交換会											

2日目 9月4日 (水)											
会場名	講堂	B201	B202	B101	B102	新C103	新C203	新C303	新C403	B棟ロビー	
9:00-10:30		Z-4 (賛助会員セッション) エルゼビア・ジャパン All	A-4 URA 活動の高次元化を実現する戦略的活動アーカイブ Middle	D-1 ポストアワードが生み出すものとは ～伴走型支援と研究力・産学連携強化～ All		N-3 URA にとっての PM とは	R-2 INORMS の取組み：Research Evaluation Working Group All	K-1 プレアワード業務入門 Beginner	C-2 URAx マーケティング 新たな価値の創造に向けて All	ポスター／企業ブース展示	
10:30-10:40	休 憩										
10:40-12:10		B-3 SDGsに大学はどう貢献していくか？ All	G-2 海外ファンド機関とのパートナーシップによる若手研究者の国際化支援 Middle/Advance	A-5 URA が生み出す価値とは All	H-1 URA 人材育成の在り方 ～多能工型育成プログラムを通じて～ All	N-4 スキル認証の現状と方向性を考える	R-3 アジアの胎動：Research Management and Administration All	K-2 研究力分析入門 ～論文データと科研費データの分析 Beginner	F-2 研究を育てるということ Beginner		
12:10-12:20	休 憩										
12:20-13:20				Z-5 (ランチョン) シュプリングー・ネイチャー All	Z-6 (ランチョン) ジュー・サーチ All					ポスターコアタイム	
13:20-13:50	休 憩										
13:50-15:20		F-3 超スマート社会 (Society5.0) と地域創生、そして大学の役割 Middle/Advance	A-6 ポスト「研究大学強化促進事業」時代の URA 組織運営 Middle/Advance	D-2 新たな学際研究を導くポストアワード力 All	A-7 URA の人的ネットワークから得られるものとは？ Beginner/Middle	N-5 URA 間の情報共有を考える	R-4 国際パネルディスカッション：INORMS 2020 Hiroshima へ向けて All	B-4 中の人が語る、"学内ファンド運営"の理想と現実：研究開発評価の実装を目指して Middle	A-8 URA のための大学職員養成プログラムの役割 All	ポスター／企業ブース撤去 15:00完了	
15:30-16:00	クロージング										

5th RMAN-J Annual Conference 2019

特別セッション	月日	時間		
	9 / 3	10:30-12:00	S-1	関係省庁セッション／我が国の研究力強化のために目指すべき方向性
		13:20-14:50	S-2	大学執行部セッション／URAが備えるべき能力とその認定制度について
		15:50-17:20	R-1	高橋 真木子 (金沢工業大学)
	9 / 4	9:00-10:30	R-2	清家 弘史 (京都大学)
		10:40-12:10	R-3	三代川 典史 (広島大学)
		13:50-15:20	世界のURA 達：Research Administration as a Profession (RAAAP) Survey	
			INORMS の取組み：Research Evaluation Working Group	
			アジアの胎動：Research Management and Administration	
			国際パネルディスカッション：INORMS 2020 Hiroshima へ向けて	

企業等セッション	月日	時間		
	9 / 3	10:30-12:00	Y-1	国立研究開発法人科学技術振興機構
		12:10-13:10	Y-2	EURAXESS Japan (ホライズン 2020 プログラムを用いた日欧共同研究プロジェクト：ケーススタディ)
			Z-1	カクタス・コミュニケーションズ株式会社 (ランチョン)
			Z-2	エダダンス グループ ジャパン株式会社 (ランチョン)
			Y-3	助成財団センター (民間助成金の獲得に向けてー助成金応募に際しての留意点など)
	9 / 4	13:20-14:50	Z-3	クラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社 (賛助会員セッション)
		15:50-17:20	Z-4	エルゼビア・ジャパン株式会社 (賛助会員セッション)
		9:00-10:30	Z-5	シュプリングー・ネイチャー (ランチョン)
			Z-6	株式会社ジュー・サーチ (ランチョン)

会員セッション (口頭発表含む)	月日	時間	オーガナイザー	タイトル
	9 / 3	10:30-12:00	B-1 矢吹 命大 (横浜国立大学)	URAによる研究力分析業務高度化に向けて
			A-1 河上 寛 (福井大学)	大学発ベンチャー創出におけるURAの機能
			A-2 山本 外茂男 (北陸先端科学技術大学院大学)	URAに必要な情報収集・分析能力
		13:20-14:50	I-1 佐藤 智哉 (金沢大学)	ハゲタカジャーナル - 問題点・現状・対策
			B-2 佐々木 結 (京都大学)	研究の発展につながる評価とは：「責任ある研究評価・測定 (Responsible Metrics)」とURAにできること
			O-1 ～ 2 口頭発表 (2 会場)	
			N-1 石田 貴美子 (同志社大学)	ネットワーキングしよう
			G-1 西村 薫 (東京工業大学)	日本の大学・研究機関の国際化に向けたURAの役割
		15:50-17:20	A-3 寺本 時靖 (神戸大学)	URAのスキルアップ、ステップアップを考える-プログラム・マネージャー育成・活躍推進プログラム修了生からの提案-
			O-3 ～ 4 口頭発表 (2 会場)	
			N-2 矢吹 命大 (横浜国立大学)	プログラミングによるデータ分析の生産性向上ーCode for Research Administration
			F-1 市田 秀樹 (信州大学) 林 靖人 (信州大学)	研究力を伸ばす産学連携の新たな視点
			C-1 久保 陽介 (一般社団法人先端科学技術研究支援協会) Mathieu Py (EURAXESS) 岡田 吉史 (名古屋大学)	日本の国際研究者メンバーのキャリア形成と外部資金の獲得支援-メンタリングプログラム (個人指導プログラム) を通じて
		9:00-10:30	A-4 大西 将徳 (京都大学) 岡崎 麻紀子 (京都大学) 田上 款 (京都大学)	URA活動の高次元化を実現する戦略的活動アーカイブ
			D-1 諏訪 桃子 (首都大学東京)	ポストアワードが生み出すものとはー伴走型支援と研究力・産学連携強化へ
			N-3 寺本 時靖 (神戸大学)	URAにとつてのPMとは
			K-1 スkilプログラム専門委員会 / 阿部 紀里子 (信州大学)	プレアワード業務入門
			C-2 本間 紀美 (東京工業大学)	URAxマーケティング 新たな価値の創造に向けて
			B-3 館 正一 (関西大学)	SDGsに大学はどう貢献していくか？
	9 / 4	10:40-12:10	G-2 鈴木 環 (京都大学) 桑田 治 (京都大学) 仲野 安紗 (京都大学) 園部 太郎 (京都大学)	海外ファンド機関とのパートナーシップによる若手研究者の国際化支援
			A-5 高野 誠 (大阪大学)	URAが生み出す価値とは
			H-1 峯岸 敬 (群馬大学)	URA人材育成の在り方ー多能工型育成プログラムを通じてー
			N-4 平田 徳宏 (九州大学) 高橋 仁 (広島大学)	スキル認証の現状と方向性を考える
			K-2 スkilプログラム専門委員会 / 矢吹 命大 (横浜国立大)	研究力分析入門ー論文データと科研費データの分析
			F-2 原田 隆 (東京工業大学)	研究を育てるということ
		13:50-15:20	F-3 富田 克彦 (神戸大学)	超スマート社会 (Society5.0) と地域創生、そして大学の役割
			A-6 馬場 忠 (筑波大学) 加藤 英之 (筑波大学) 新道 真代 (筑波大学)	ポスト「研究大学強化促進事業」時代のURA組織運営
			D-2 田中 有理 (首都大学東京) 石田 貴美子 (同志社大学) 丸山 浩平 (早稲田大学)	新たな学際研究を導くポストアワード力
			A-7 設楽 愛子 (東京海洋大学)	URAの人的ネットワークから得られるものとは？
			N-5 岡野 恵子 (横浜市立大学)	URA間の情報共有を考える
			B-4 天野 絵里子 (京都大学) 長谷川 佐知子 (新潟大学) 岡崎 麻紀子 (京都大学)	中の人が語る、"学内ファンド運営"の理想と現実：研究開発評価の実装を目指して
			A-8 松本理沙 (金沢大学)	URAのための大学職員養成プログラムの役割

●口頭発表、ポスター発表の内容につきましては、7月中旬に大会ホームページに公開を予定しています。